

直前東大数学Ⅲ特講



問題

【1】 $\arg z = \alpha$ とおくと

$$|z| \cos \alpha = a \cos \theta, \quad |z| \sin \alpha = \sin \theta$$

である。したがって

$$\tan \alpha = \frac{\sin \alpha}{\cos \alpha} = \frac{1}{a} \tan \theta$$

これより

$$\tan y = \tan(\theta - \alpha) = \frac{\tan \theta - \tan \alpha}{1 + \tan \theta \tan \alpha} = \frac{\tan \theta - \frac{1}{a} \tan \theta}{1 + \frac{1}{a} \tan^2 \theta}$$

$$= \frac{\frac{a-1}{a} \tan \theta}{\frac{a}{\tan \theta} + \tan \theta} \leq \frac{a-1}{2\sqrt{a}}$$

$$\left(\because \frac{a}{\tan \theta} > 0, \tan \theta > 0 \text{ より相加・相乗平均の関係から} \right)$$

等号成立は

$$\frac{a}{\tan \theta} = \tan \theta \quad \therefore \quad \tan \theta = \sqrt{a}$$

のとき、

よって

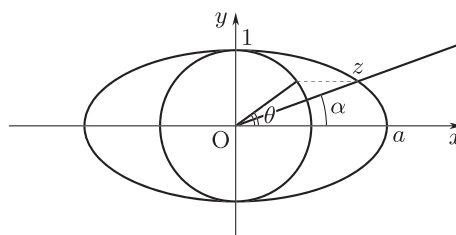
$$\tan \theta_0 = \sqrt{a}, \quad \tan M = \frac{a-1}{2\sqrt{a}} \quad (\text{答})$$

参考

$z = x + iy$ とおくと $x = a \cos \theta$, $y = \sin \theta$ なので x , y は

$$\frac{x^2}{a^2} + y^2 = 1$$

の上であり、それぞれの角 θ と α は下図のようにになっている。



【配点の目安】

配点：25 点

□₁ $\cos \alpha = \frac{a \cos \theta}{|z|}$, $\sin \alpha = \frac{\sin \theta}{|z|}$ がわかって 5 点

- ₂ $\tan(\arg z)$ を a, θ で表して 5 点
- ₃ 相加・相乗平均の関係より $\tan y \leq \frac{a-1}{2\sqrt{a}}$ を述べて 3 点
- ₄ 等号成立条件を述べて 2 点
- ₅ $\tan \theta_0 = \sqrt{a}, \tan M = \frac{a-1}{2\sqrt{a}}$ がわかって 10 (各 5) 点

- 【2】 1 回目はどの箱に入ってもよい. 2 回目から N 回目はまだ入っていない箱に入れている. $N+1$ 回目にすでに入っている N 個の箱のどれかに入れる. よって

$$P(2N, N+1) = \frac{2N}{2N} \cdot \frac{2N-1}{2N} \cdots \frac{2N-(N-1)}{2N} \cdot \frac{N}{2N}$$

より

$$\frac{1}{N} \log P(2N, N+1) = \frac{1}{N} \sum_{k=0}^N \log \frac{2N-k}{2N} = \frac{1}{N} \sum_{k=1}^N \log \left(1 - \frac{1}{2} \cdot \frac{k}{N} \right)$$

よって

$$\begin{aligned} & \lim_{N \rightarrow \infty} \frac{1}{N} \log P(2N, N+1) \\ &= \int_0^1 \log \left(1 - \frac{x}{2} \right) dx \\ &= \int_0^1 (-2) \left(1 - \frac{x}{2} \right)' \log \left(1 - \frac{x}{2} \right) dx \\ &= \left[(-2) \left(1 - \frac{x}{2} \right) \log \left(1 - \frac{x}{2} \right) \right]_0^1 - \int_0^1 (-2) \left(1 - \frac{x}{2} \right) \frac{-\frac{1}{2}}{1 - \frac{x}{2}} dx \\ &= -\log \frac{1}{2} - \int_0^1 1 dx \\ &= \log 2 - 1 \quad (\text{答}) \end{aligned}$$

【配点の目安】

配点：25 点

- ₁ $P(2N, N+1) = \frac{2N}{2N} \cdot \frac{2N-1}{2N} \cdots \frac{2N-(N-1)}{2N} \cdot \frac{N}{2N}$ を求めて…5 点
- ₂ $\frac{1}{N} \log P(2N, N+1)$ を和の形で表して……………5 点
- ₃ $\lim_{N \rightarrow \infty} \frac{1}{N} \log P(2N, N+1) = \int_0^1 \log \left(1 - \frac{x}{2} \right) dx$ がわかって……………5 点
- ₄ 答に……………10 点

【3】(1) 条件より $x \geq 5$ において $f(x) > 1$ なので、この範囲で

$$\int_5^x f(t) dt \geq \int_5^x dt \quad \therefore \quad F(x) - F(5) \geq x - 5$$

すなわち

$$F(x) \geq x - 5 + F(5) \quad \dots\dots\dots ①$$

そして、 $\lim_{x \rightarrow +\infty} \{x - 5 + F(5)\} = +\infty$ だから

$$\lim_{x \rightarrow +\infty} F(x) = +\infty$$

同様に、 $x \leq -5$ において $f(x) > 1$ なので、この範囲で

$$\int_x^{-5} f(t) dt \geq \int_x^{-5} dt \quad \therefore \quad F(-5) - F(x) \geq -5 - x$$

すなわち

$$F(x) \leq x + 5 + F(-5) \quad \dots\dots\dots ②$$

そして、 $\lim_{x \rightarrow -\infty} \{x + 5 + F(-5)\} = -\infty$ だから

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} F(x) = -\infty \quad (\text{証終})$$

(2) $F(5) > 0$ ならば、①より $x \geq 5$ のとき

$$F(x) > x - 5 \geq 0$$

となり、この範囲で $F(x) = 0$ の解は存在しない。また、 $F(-5) < 0$ ならば、②より $x \leq -5$ のとき

$$F(x) < x + 5 \leq 0$$

となり、この範囲で $F(x) = 0$ の解は存在しない。よって、 $F(x) = 0$ の解が $x \leq -5$ 、 $-5 < x < 5$ 、 $5 \leq x$ に少なくとも1つずつ存在するならば

$$F(-5) \geq 0 \text{ かつ } F(5) \leq 0$$

でなければならない。

逆にこのとき、(1)の結果と $F(x)$ の連続性から以下のことがわかる。

$$\begin{cases} F(-5) \geq 0 \text{ より, } x \leq -5 \text{ の範囲に解が存在する.} \\ F(5) \leq 0 \text{ より, } 5 \leq x \text{ の範囲に解が存在する.} \end{cases}$$

次に、 $-5 < x < 5$ の範囲の解の存在を示す。

(i) $F(-5) > 0$ かつ $F(5) < 0$ のときは明らかに、 $-5 < x < 5$ の範囲に解が存在する。

(ii) $F(-5) > 0$ かつ $F(5) = 0$ のとき、 $f(x)$ の連続性から

$$\lim_{x \rightarrow 5-0} f(x) = f(5) > 1$$

が成り立つ。これより、 $x_1 \leq x \leq 5$ の範囲で

$$f(x) > 1$$

をみたす 5 に十分近い数 $x_1 (< 5)$ をとることができる. すると, $F(x)$ は上の範囲で連続かつ微分可能であるから, 平均値の定理より

$$\frac{F(5) - F(x_1)}{5 - x_1} = F'(c) = f(c), \quad x_1 < c < 5$$

をみたす c が存在し, かつこの c は $f(c) > 1$ をみたすので

$$\frac{F(5) - F(x_1)}{5 - x_1} > 1 \quad \therefore \quad F(5) - F(x_1) > 5 - x_1$$

そして, $F(5) = 0$ だから

$$F(x_1) < x_1 - 5 < 0$$

これと $F(-5) > 0$ から, $-5 < x < x_1 (< 5)$ の範囲に解が存在する.

(iii) $F(-5) = 0$ かつ $F(5) < 0$ のとき, (ii) と同様に $f(x)$ の連続性から, $-5 \leq x \leq x_2$ の範囲で

$$f(x) > 1$$

をみたす -5 に十分近い数 $x_2 (> -5)$ がとれて, 平均値の定理より

$$\frac{F(x_2) - F(-5)}{x_2 - (-5)} = F'(d) = f(d), \quad -5 < d < x_2$$

をみたす d が存在する. この d は $f(d) > 1$ をみたすので

$$\frac{F(x_2) - F(-5)}{x_2 - (-5)} > 1 \quad \therefore \quad F(x_2) - F(-5) > x_2 + 5$$

そして, $F(-5) = 0$ だから

$$F(x_2) > x_2 + 5 > 0$$

これと $F(5) < 0$ から, $(-5 <) x_2 < x < 5$ の範囲に解が存在する.

(iv) $F(-5) = 0$ かつ $F(5) = 0$ のときは, (ii), (iii) と同様の考察により, $(-5 <) x_2 < x < x_1 (< 5)$ の範囲に解が存在する.

以上いずれの場合も $-5 < x < 5$ の範囲の解の存在が示されたので, 題意は成立する. (証終)

■ 参考

(2) の $-5 < x < 5$ における解の存在は, 背理法を用いても証明できる. この場合, $-5 < x < 5$ の範囲で

$$\text{つねに } F(x) > 0 \text{ または, つねに } F(x) < 0$$

のいずれかが成立すると仮定して矛盾を導けばよく, やはり

$$F'(5) = f(5) > 1, \quad F'(-5) = f(-5) > 1$$

が決め手になる (本質的に [解答] と同じだ).

【配点の目安】

配点: 25 点

(1) 8 点

(2) 17 点

- (1) $\square_1$ $F(x) - F(5) \geq x - 5$ を示して 1 点
 $\square_2$ $\lim_{x \rightarrow +\infty} F(x) = +\infty$ に 3 点
 $\square_3$ $F(-5) - F(x) \geq -5 - x$ を示して 1 点
 $\square_4$ $\lim_{x \rightarrow -\infty} F(x) = -\infty$ に 3 点
- (2) $\square_1$ 必要条件であることを示して 6 点
 $\square_2$ $F(-5) \geq 0$ かつ $F(5) \leq 0$ のとき
 $x \leq -5, 5 \leq x$ に少なくとも 1 つずつの解をもつことを述べて 2 点
 $\square_3$ $F(-5) > 0$ かつ $F(5) < 0$ のときに, $-5 < x < 5$ に
少なくとも 1 つの解をもつことを述べて 2 点
 $\square_4$ $F(-5) > 0$ かつ $F(5) = 0$ のときに, $-5 < x < 5$ に
少なくとも 1 つの解をもつことを述べて 2 点
 $\square_5$ $F(-5) = 0$ かつ $F(5) < 0$ のときに, $-5 < x < 5$ に
少なくとも 1 つの解をもつことを述べて 2 点
 $\square_6$ 題意を示して 3 点

【4】条件において、 $n = 1$ のとき、 $a_1^2 = 3$ であるから、 $a_1 > 0$ より

$$a_1 = \sqrt{3}$$

$n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} a_n^2 &= \sum_{k=1}^n a_k^2 - \sum_{k=1}^{n-1} a_k^2 \\ &= (n^2 + 2n) - \{(n-1)^2 + 2(n-1)\} = 2n + 1 \end{aligned}$$

よって、 $a_n > 0$ より

$$a_n = \sqrt{2n+1} \quad (\text{これは } n=1 \text{ のときもみたす})$$

$S_n = a_1 + \cdots + a_n$ とおくと

$$S_n = \sum_{k=1}^n \sqrt{2k+1}$$

このとき、 $y = \sqrt{2x+1}$ は単調増加なので、 $k \leq x \leq k+1$ において

$$\sqrt{2k+1} < \int_k^{k+1} \sqrt{2x+1} dx < \sqrt{2k+3}$$

第1式において $k=1$ から $k=n$ までの和をとって

$$\sum_{k=1}^n \sqrt{2k+1} < \int_1^{n+1} \sqrt{2x+1} dx$$

$$\therefore S_n < \left[\frac{1}{3}(2x+1)^{\frac{3}{2}} \right]_1^{n+1} = \frac{1}{3}(2n+3)^{\frac{3}{2}} - \sqrt{3} \quad \cdots \cdots \cdots \textcircled{1}$$

また、第2式で $k=0$ から $k=n-1$ までの和をとって

$$\int_0^n \sqrt{2x+1} dx < \sum_{k=0}^{n-1} \sqrt{2k+3} = \sum_{k=1}^n \sqrt{2k+1}$$

$$\therefore S_n > \left[\frac{1}{3}(2x+1)^{\frac{3}{2}} \right]_0^n = \frac{1}{3}(2n+1)^{\frac{3}{2}} - \frac{1}{3} \quad \cdots \cdots \cdots \textcircled{2}$$

したがって、①、②より

$$\frac{1}{3}(2n+1)^{\frac{3}{2}} - \frac{1}{3} < S_n < \frac{1}{3}(2n+3)^{\frac{3}{2}} - \sqrt{3}$$

両辺を $n^{\frac{3}{2}}$ で割ると

$$\frac{1}{3} \left(2 + \frac{1}{n} \right)^{\frac{3}{2}} - \frac{1}{3} n^{-\frac{3}{2}} < n^{-\frac{3}{2}} S_n < \frac{1}{3} \left(2 + \frac{3}{n} \right)^{\frac{3}{2}} - \sqrt{3} n^{-\frac{3}{2}}$$

よって、 $n \rightarrow \infty$ のとき、はさみうちの原理により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n^{-\frac{3}{2}} S_n = \frac{1}{3} \cdot 2^{\frac{3}{2}} = \frac{2\sqrt{2}}{3} \quad \cdots \cdots \cdots \textcircled{3}$$

ここで

$$T_n = \frac{a_1 + \cdots + a_n}{n^r} = \frac{S_n}{n^r} = n^{-r+\frac{3}{2}} \cdot n^{-\frac{3}{2}} S_n$$

であるから、③を考えると、 $n \rightarrow \infty$ のときに

$$\begin{cases} -r + \frac{3}{2} > 0 \text{ のとき, } n^{-r+\frac{3}{2}} \rightarrow \infty \text{ により} & T_n \rightarrow \infty \\ -r + \frac{3}{2} = 0 \text{ のとき, } n^{-r+\frac{3}{2}} \rightarrow 1 \text{ により} & T_n \rightarrow \frac{2\sqrt{2}}{3} \text{ (収束)} \\ -r + \frac{3}{2} < 0 \text{ のとき, } n^{-r+\frac{3}{2}} \rightarrow 0 \text{ により} & T_n \rightarrow 0 \text{ (収束)} \end{cases}$$

以上より、求める収束条件は

$$r \geq \frac{3}{2} \quad (\text{答})$$

このとき

$$\begin{cases} r = \frac{3}{2} \text{ のとき} & \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_1 + \cdots + a_n}{n^r} = \frac{2\sqrt{2}}{3} \\ r > \frac{3}{2} \text{ のとき} & \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_1 + \cdots + a_n}{n^r} = 0 \end{cases} \quad (\text{答})$$

【配点の目安】

配点：25 点

□₁ $a_1 = \sqrt{3}$ を求めて 2 点

□₂ $a_n = \sqrt{2n+1}$ を求めて 3 点

□₃ $\frac{1}{3}(2n+1)^{\frac{3}{2}} - \frac{1}{3} < S_n < \frac{1}{3}(2n+3)^{\frac{3}{2}} - \sqrt{3}$ を得て 7 点

□₄ $\lim_{n \rightarrow \infty} n^{-\frac{3}{2}} S_n = \frac{2\sqrt{2}}{3}$ を得て 3 点

□₅ $r \geq \frac{3}{2}$ を得て 4 点

□₆ $\begin{cases} r = \frac{3}{2} \text{ のとき} & \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_1 + \cdots + a_n}{n^r} = \frac{2\sqrt{2}}{3} \\ r > \frac{3}{2} \text{ のとき} & \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_1 + \cdots + a_n}{n^r} = 0 \end{cases}$ を得て 6 (各 3) 点



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--